



ふるさと副業・兼業人材活用フォーラム2023

8月24日、あきた芸術劇場ミルハスにて「ふるさと副業・兼業人材活用フォーラム2023」が開催された。開場には55名、オンラインでは45名が参加した。「ふるさと副業・兼業」とは、地方企業と都市部のビジネスパーソンを繋ぐ、国も推奨する新たなマッチングの形だ。

第一部では「経営課題解決のトレンド 副業・兼業人材活用のポイント」として株式会社リクルートの古賀氏による講演が行われた。なぜ「副業・兼業人材」を活用することが推進されているのか、加えてどのように活用するべきかというポイントについて講演が行われた。実は秋田県は副業・兼業人材の活用において、全国では第5位、東北では第1位という実績を持っている。平均月額報酬は5万円で、現在70名の副業プロ人材が活躍し、企業にマッチングしている。

第二部では、株式会社秋田魁新報社社会部長論説委員である小松嘉和氏がファシリテーターを務め、パネリストとして株式会社花善の代表取締役社長である八木橋秀一氏、有限会社ふく屋の代表取締役である古屋和久氏、株式会社リクルートの狩野美鈴氏を迎え、実際の事例について忌憚のないトークセッションが行われた。

八木橋氏は「輸出とECという分野にしぼり、プロ人材にサポートをお願いした。私が輸出をするにあたって、国によって異なる法律があることを把握したり、輸出商社との



つながりを一からつくるよりも、経験があり、理解している人に頼んだほうが良いと思います。ECにしても同様です。それぞれで2名ずつ契約させていただいた」と、副業・兼業人材と契約した経緯を説明した。

古屋氏は「高級納豆という市場に挑戦して20年。この先どうしたら良いかという漠然とした不安があった。リクルートの担当者とプレストし、自分の課題は経営戦略のプロに解決してもらえると理解できた。そこで、プロ人材と契約し、現在も改善の最中です」と説明。さまざまなプロ人材の活用法があることがわかった。

一方で、リクルート・サンカクのスタッフでもあり、同時に副業・兼業人材としてご自身も活躍する狩野氏は「ひとつの企業のプロジェクト単位で副業に関わっている。例えば新規事業を検討している段階であれば、社長と毎週打ち合わせをし、業務改善に関するシステム導入について相談される場合は、いくつかのシステム会社にヒアリング、調査した内容をまとめて、副業先の企業に提案。導入、レクチャーなども含めて6ヶ月間の契約、ということもあります。困っている課題に対して、スポット的に関わる形」と、シーンに合わせたプロ人材の活用法を紹介した。

会場では、実際の事例などを交えたトークショーに興味深く聞き入る参加者の姿が見られた。



参加者の声



株式会社高橋しよつる屋 代表取締役社長 高橋 信一 さん

弊社の事業は秋田の伝統食であるしよつるの製造です。商品をお客様へどう伝えていくかという部分で一度プロ人材を検討したことがありましたが、オンラインでのやりとりには違和感を感じて見送ったことがありました。今回フォーラムに参加して、漠然とした課題に対し、相談しながらサポートしてもらうことも可能なんだなと思いました。長い目で事業を見直すという活用の方法もあるので、検討していきたいと思います。